

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所 はんざわ体操クラブ		
○保護者評価実施期間	6年 11月 20日		6年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	76人	(回答者数) 56人
○従業者評価実施期間	6年 11月 1日		6年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	6年 12月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・体操教室に参加したり、体操器具を使って活動します。 ・広い体育館で自由に運動が出来るのでストレスの発散になります。	・体育館活動では、体操器具を用いた体操教室も行っていますが、集団活動に馴染めない場合や体操に関心が持てなくても活動が行えるようにボールやバドミントン等の一般のスポーツ活動も行っています。	・一般体操教室では、年齢や部門に分かれて体操指導員によるスキルアップも出来ます。 ・体操以外の活動には支援員も参加し、一人一人の行動に着目して必要なアドバイスをしています。
2	・活動場所として、体育館、デイルーム、ログハウスを設けています。	・活動場所に使用時間を決めて、活動分けをしています。	・運動活動、制作や宿題等の活動に合った場所を提供しています。時間ごとに活動内容を変えていますが、次の行動が見える活動が出来るので、安心して過ごす事が出来ます。
3	・勤務年数が長い職員が多く、利用者との関わりに信頼関係が出来ています。	・集団活動を通して規律正しい行動が出来るよう、ニーズに合った対応や声掛けをすることが出来ます。誉めながら、楽しく、時に厳しくメリハリをつけて対応しています。	・一つでも多く、自分で出来る事を見つけられる様に確認しながら支援しています。保護者のニーズを理解しながら無理せず関わり、利用者が楽しく過ごせる支援を目指しています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・体育館内に体操器具が設置されているので、体操以外の活動をする時に器具が危険な存在になる事がある。場所や機材の場所に注意をしながら使用しなければならないと感じています。	・体育館で走ったり、バドミントンやドッチボール等の活動を同時に行うのは、安全を確保することが難しい。どうすれば、安全な場所として活動出来るかを検討し改善していきます。	・過ごしやすい環境づくりとは何かを考え、怪我なく過ごせる場所にするために、道具の使い方、使用年齢分け等を検討しより安全な活動を目指していきます。
2	・利用時間や送迎については、希望に添えない場合があります。	・現状の職員数では送迎が難しい場合がありますが、出来るだけニーズに合った送迎が出来るように調整していきます。	・送迎担当の増員を検討していきたい。現在利用の皆様が送迎を利用できるように、人数等を調整して行きたいと思えます。
3	・イベント等の、利用者に喜ばれる企画が少ないと感じています。	・マンツーマンでの見守り、支援が必要な利用者の居るので危険を伴わないよう人員配置を行う事が難しいと感じています。	・夏季、冬季に敷地内で行える恒例の企画、イベントを検討したい。人員配置等を検討し、保護者に負担のかからない範囲で企画を検討していきたいと思っています。